

## 「とねっと」の取り組みについて

○神原 武（カンバラ タケシ）1）

1） 日本電気株式会社 関東甲信越支社 医療ソリューション営業部

### 【はじめに】

埼玉県利根保健医療圏は人口 644,276 人、10 万人あたりの医師人員数 129.18 人（全国平均 246 人）と医師不足が著しい地域である（人口及び高齢化率：2015 年国勢調査）。

また高齢化率が全県平均よりも高く、在宅での生活が困難になった方が安心して施設でのサービスを受けられるよう多様な介護施設等の整備の必要性が高い課題がある。

「とねっと」は 2012 年より他社製システムから運用を開始したが、2018 年より地域の医療情報基盤として ID-Link へ更新した事例を報告する。

### 【とねっとの特徴】

本人の医療情報の共有に同意していることを示すカード「とねっとカード」と IT を活用して、ネットワークに参加する医療施設間で患者の医療情報を共有し、診療に役立てる地域医療ネットワークシステムである。患者のネットワーク参加（同意）方式は同意書による包括同意方式をとっており、同意を得た患者には「とねっとカード」が配布される。患者は情報連携できる参加施設を選択できるように、全ての参加施設ごとに「とねっとカード」の提出による個別同意（二段階方式）をとり情報連携を実現している（医療機関ごとの紐付け登録により全システムが利用可能）

「とねっと」は、ひとつのシステムで医療情報と健康記録を機能分離した全国唯一のシステムである。このうち、医療情報としては、地域 ID と「とねっとカード」による患者情報共有機能、診療/検査予約機能、紹介状管理や地域連携パス（糖尿病）等を実施できる医療連携機能、掲示板、メール等のグループウェア機能、各種統計の CSV 出力等を行う統計処理機能、救急隊との連携を行うための救急参照機能、一方、健康記録としては、患者本人に自己の健康情報を管理してもらう健康記録機能があり、あわせて 7 つの機能がある。

### 【今後の展望】

現状、更なる改善に向けシステムワーキンググループ、会議等で検討を重ねている。

医師や利用者に活用され、かつ、診療に役立つ有益なシステムへの改善を図り、住民にメリットとして還元される（効果が見られる）システム、住民の医療に対する安心感が得られるシステムを目指す。